



下石分団 伊藤雄一さん

結婚を期に下石に来て、知人に誘われて入団しました。団活動を通じて、普通に生活していたら知り合うことのなかった人たちと出会い、たくさんの年代の仲間がで、地域の信用を得ることができたと思います。入団を考えている方は、ぜひこのことの良さを知ってほしいです。

お子さんからお父さんへ

お父さんがいないとき、お母さんから「お父ちゃんは火事が起きたからとんでいったよ」と聞きました。これからも何かあったら羽をはやして飛んで行ってください。気を付けて頑張っ

守りたいもの

消防団員は、自分の仕事を持ちながら、火災や災害が起きると現場へ駆け付け、消火活動・救助活動を行う地域のボランティアです。彼らが自分たちのまちを守る活動に携わる理由は。

今回の特集は消防団員。

そこに守りたいものがあります。

問 市消防本部 (☎0041)

濃南分団 伊藤 喬さん

濃南分団が岐阜県の操法大会に出場する年に入団したためかもしれませんが、団員の結束力に驚きました。あそこまで熱中するのは部活動以来の印象でした。活動を通じ、地域の危険箇所や避難経路など災害を想定して考えるようにもなりました。地域のことはもちろん、家族や自分の安全にもつながると思います。入団を考えている方には、消防団はいろいろな職種の人が集まっているので地元で顔が広くなり、自分の仕事につながることを知ってほしいです。「個の力より組織の力」。消防団はいつでもあなたの力を求めています。

ご家族からのメッセージ

自宅前の建物が火災になった時、ホースの先端を持ち消火活動をしている主人の姿を見ました。感動したと同時に危険と隣り合わせの活動なのだと実感しました。けがをしないよう無事に家に帰ってきてね。



VOLUNTEER



土岐津分団
山火事を想定した消火訓練



駄知分団
戸松 舞衣さん

「自分の住んでいる町のために何かしたい」と思って入団しました。入団してみると、これまで消防団員が私の知らないところで地域のために訓練や警備をしてくれていたことに気が付きました。地域の方から声を掛けていただくことも増えましたね。

うれしかったことは、市の大会で、たくさん練習した小隊訓練で賞を取れたことです。操法大会に向けての練習は大変でしたけど…。

大変なこともありますが、女性団員だからできることもあり、やりがいのある活動だと思います。地域のためにいっしょに活動しましょう。



肥田分団
夜間の放水訓練

活動の紹介



消防音楽隊
深川 真有さん

友人と見学に行ったら楽しそうだったので、みんなで入団を決めました。当時は、おじさんたち『ちょっと怖そうかな』と思いましたが、話してみたら全然そんなことなく、活動は生活のいい息抜きになるし、いろんな世代の仲間ができました。

分からないことや困ったことは団員が助けてくれるし、一緒に考えてくれます。少しでも興味を持ったら、あまり深く考えずに入団してみたらいいと思いますよ。



妻木分団
消防団車両の説明会

仕事で疲れていても消防団活動をする姿を見ると、本当にお疲れさまという思いと、少しでも地域のためになっていればありがたいなと思っています。消防団活動は、私たちの命を守る大切な地域貢献だと思います。皆さんのご協力も引き続きお願いします。

消防団に入団するには

18歳以上で、市内に居住または勤務している方が対象です。入団を希望する方は、地域の消防団またはお近くの消防署へ問い合わせください。

取材後記

普段からまちを守っている消防団員を、少しでも身近に感じてほしい。そんな思いでこの特集を企画しました。団員のインタビューでは『家族の支え、人と人とのつながり、地元のために』という言葉が聞きました。私たちの社会は、SNSなどで誰でも簡単につながれるようになり、コロナ禍では対面や移動を避ける生活様式を強いられました。それでも、大災害が起きたとき、まず頼りになるのは地元のつながりです。人とつながりを大切にしながら、顔の見える関係をつくり上げている消防団がいるからこそ、災害に強いまちができるのだと、その存在を再認識しました。最後に、インタビューをした泉分団のご家族の言葉を紹介します。消防本部警防課 堀 雅大

FIRE CORPS

伝統と革新 土岐市消防団 団長 楓 康典さん

全国的な消防団員の減少と高齢化は土岐市も例外ではない。消防団はどうあるべきか。市消防団団長の楓康典さんは「歴史と伝統を守り、新しい風を取り入れ飛躍」を目指す。「これからの消防団は、地域活動に参加し、地域に溶け込みながら、活動や魅力を知ってもらうことも大切」と考える。新しい風として女性の力にも期待する。「消防と聞くと近寄りやすいイメージがあったかもしれないが、自主防災での救命活動や火災予防の啓発など、女性ならではの視点を生かして活躍してほしい」と話す。次世代への引き継ぎも待たない。「団員OBやOGは再任して、若い世代に知識と経験を伝えてほしい。消防団と自主防災組織、OB、OGそれぞれが地域に合った取り組みを考えることが、災害被害の少ない地域の未来をつくっていく」と訴える。「時代が変わっても、ここで暮らす私たちが地域を守ることは変わらない。人と人とのつながりを大切に思う多くの方に入団してほしい」



親子2世代で地域を守る



泉分団
分団長
伊藤 真さん

消防団には、同業者の大先輩から話を受け、地域貢献ができると思って入団しました。今では息子も団員となり、親子2世代で消防団活動をしています。今、泉分団の分団長を務めていますが、2世代で活動することで53人の団員の様子が手に取るように分かり、団を指揮する上で良かったと思います。ただ、日中に招集があると2人で一緒に出動できないところがありますね。家族は、消防団の活動に「良い意味」で変わりなく接してくれています。

消防団活動は、地域の命、財産を守る活動です。そんな大切な役割に関わることができるのは、すごく貴重なことですし、子どもたちにも夢を与えられると思っています。私は消防団で活動することで、仕事や趣味、価値観の違う仲間と出会うことができました。この仲間は将来、きっと助け合える仲間になります。地域に貢献し、信頼され、地域と深くつながることは、自分の価値を高めることにつながります。ぜひ一緒に頑張りましょう。

入団のきっかけは、地元の団の先輩に誘われて、活動を見学に行ったことです。父と2世代で活動することになりましたが、団の情報をお互いに知ることができ、活動に対しても素直な意見を伝えることができるので、良かったと思います。良くなかったことは…父も話していますが、活動の日に仕事があると、どちらかが参加できないことです。

火事場の活動は本当に大変です。でも、地域の方から感謝の言葉を伝えてもらい、自分たちが必要とされていると感じる時は「やっていて良かった」と思いますし、これからも続けようという意欲になります。

僕は消防団の活動で新しい仲間と出会い、地域の方との交流を深めることができました。もちろん、貴重な休日を犠牲にすることは簡単ではないと思います。でも、消防団でしかできないことを経験し、さまざまな知識や技術を習得することができます。消防団は活動していると良さが分かります。ぜひ入団を待っています。



泉分団
伊藤 一真さん